

ビジネスの新大陸を発見!!

コロンブス

MONTHLY COLUMBUS

12

2011
DEC.
680円

小藩分立 一村一品運動の精神が

大分県

の元気を
つくる

大地の顔 | 埼玉県越谷市で正月野菜「クワイ」を栽培(金子繁雄・クワイ農家)

地回り経済対談 | 東日本大震災で「後方支援」を展開する遠野のボランティアパワー (本田敏秋・遠野市長)

コロンブス経営塾 | 下町商店街が歴史資源とジャズをミックスしたイベントを開催(東京都江東区・森下商店街)

特選銘柄 | 原発戒厳令下の福島県でフランス人が豆腐づくりにチャレンジ(マーク・フローセル)

トップ会計人 | サウジアラビアでの勤務経験を生かして中東進出を支援(黒田昌史・日本マネジメント税理士法人代表社員)

モノづくり通信簿 | 橋梁には欠かせない「支承」と精密鋳物で海外市場を狙う(鈴木信吉・川金ホールディングス代表取締役社長)

木村俊昭の地域資源発掘隊!! | オホーツク地域で新ビジネスが続々と誕生(北海道網走市)

まち一番むら一番 | 下町の町工場がタッグを組んで日本海溝 8000Mの深海探査に挑む(東京都葛飾区)

(株)西山酒造場

伝統にとどまらず改革を推進 新しいお酒の市場を開拓

創業は江戸末期の1849年。地元丹波の米にこだわった酒造りをつづけ、「ここに美酒あり名づけて小鼓といふ」という俳人・高浜虚子の句からとった銘酒「小鼓」ブランドで知られる。また、その伝統だけにとどまらず、社員全員で技術革新と流通改革に取り組んで売上げを伸ばし、収益率の改善に成功した企業でもある。

社長の西山周三氏は、かつて読売テレビ放送東京支社の営業職に就いていた。が、01年に当時の社長だった父親に呼ばれて故郷の丹波へ。そのときの後を継ぐ条件は「自分のやることに文句をいわないでくれ」ということだった。「酒の売上げは下降線をたどり、待ちから攻めの姿勢に転換する必要がある。そこで、従業員の半分以上を若手に入れ替え、女性を増やし、企画やプロモーションに力を入れた。



伝統の継承にとどまらず改革を進めた西山周三社長



女性ならではの発想で商品化された微発泡酒

販売ルートも百貨店中心から直売に切り替えた」と西山社長は話す。

もちろん、古くから酒造りに携わる蔵人たちの反発もあった。「地酒ブームに乗って売上げを伸ばした父とは毎晩のように喧嘩した。また、かつての成功体験が邪魔をして、新しいビジネスモデルについていけない従業員もいた。だから、全員が賛成する方針はない、51割が賛成すればそれでいいと割り切ることにした」という。

社長をはじめとした男性ご法度の女性だけの会議も設けた。そこから生ま

判裁太 御薦断然!!

清酒「小鼓」で全国にファンを持つ西山酒造場。若い世代でのお酒の嗜好の多様化やアルコール離れが叫ばれるなか、若い女性の意見を参考に、「小鼓微発泡シリーズ」を商品化するなど、優れた商品開発力を持つ会社です。会計事務所のお客様にも大人気の「小鼓」ぜひ一度ご賞味ください。

香川会計事務所
公認会計士・税理士
香川晋平さん

れたのが「小鼓泡梅」などの微発泡酒だ。「プチプチ感のあるリキュールがほしい」という女性ならではの発想で製品化され、酒を飲まない人、これから飲んでみようという人をターゲットに発売してみた。

社長のひとこと

QRコード対応のケータイ電話でご覧いただけます。

造場の改革は、その成功事例のひとつといえるだろう。

観が多様化するなか、経営者の決断力と信念が問われることがある。西山酒造場の改革は、その成功事例のひとつといえるだろう。

社長の自社採点

企画開発力	★★★★★
営業力	★★★★☆
成長力	★★★★★
収益力	★★★★☆
地域貢献力	★★★★★
人材力	★★★★★
専門性	★★★★★
リサーチ力	★★★★☆
計画性	★★★★★
リスクマネジメント	★★★★★

会社概要

本社・兵庫県丹波市市島町中竹田1-17-1 / ☎0795-8660331 / 設立1849年(寛永22年) / 資本金3000万円 / 年商6億円 / 従業員28人
http://www.kotsuzumi.co.jp/

会計人の眼

デフレに巻き込まれず、価格以上の付加価値を生み出すこと

外食産業などを見てみると、一時よりは人が戻りはじめています。しかし、単価は下がっているため、相対的に見れば景気はやはり落ち込んでいっているといえる。一様に消費が落ち込んでいっているのは、先行きの不透明さのせいだろう。厚生年金保険料や消費税の引き上げ案が提出されたこともあり、このままではますます消費は低迷するだろう。消費に直接関係のない医療分野でさえ、最近では患者側の受診抑制も起きている。医療・介護は成長産業だから国としても何とかしたいだろうが、これが現状といえるだろう。

川村 泰央
(株)亀岡合同経研
亀岡公認会計士事務所
(大阪府大阪市)

中小企業は今後、ますます厳しい状況に立たされるかもしれない。亀井静香元金融担当相が「金融円滑化法」として債務返済猶予制度を通したが、その期限は2012年3月だ。連鎖倒産を防止するために共済法を改正するなど対応しているが、決定打にはならないだろう。

また、円高が多くの企業を苦しめているが、無闇に価格競争に飛び込んでしまつては意味がない。安さで競っているかぎりデフレに歯止めを利かせることはできないし、価格競争ではアジア諸国にはおよばない。今必要なのは、日本人が本来得意とする付加価値の高いモノづくりを行うことではないか。



近畿 兵庫